5.1chサラウンドスピーカーシステム

S-HS02

インターネットによる登録のお願い

URL　http://www3.pioneer.co.jp/

お買い上げの製品の登録を、宜しくお願い致します。上記「お客様のページ」で製品登録されますと、ID・パスワードが発行され、いつでも、どこからでもインターネットを通じて、ご登録者専用のページを、ご利用いただけます。

「お客様のページ」は、お客様とのコミュニケーションのためのホームページです。新製品カタログや取扱説明書のダウンロード、メールマガジンの申し込みなど、お客様むけの、いろいろな情報を、このホームページで、ご提供致しております。

詳しくは、お客様のページをご覧下さい。

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口·修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意（絵表示について）

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警告［異常時の処置］

プラグを抜け

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜け

- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

プラグを抜け

- 機器本体の電源スイッチを切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。旅行などで長期間この製品をご使用にならないときには、安全のため必ず電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

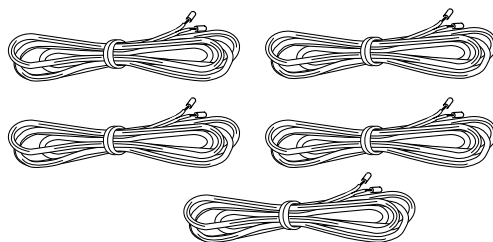
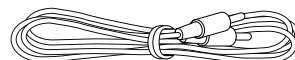
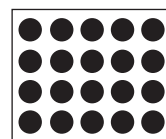
- 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ(遮断装置)に容易に手が届くように設置してください。

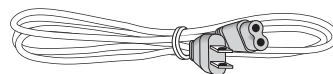
特長

- ■ **手軽に本格的なサウンドが楽しめる5.1チャンネルスピーカーシステム**
- ■ **コンパクトでハイパワー100Wの大迫力サブウーファー**
- ■ **オートスタンバイ機能搭載**
  入力信号のない状態が約8分間以上続くと自動的に出力アンプをスタンバイ状態にするオートスタンバイ機能を搭載しています。

もくじ

付属品の確認

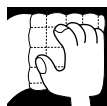
■ スピーカーコードX5 (10mX2、5mX3)

■ RCAピンコードX1

■ 滑り止めパット（サテライト用）

■ 滑り止めパット（サブウーファー用）

■ 電源コード

■ 取扱説明書
■ 安全上のご注意
■ 保証書
■ ご相談窓口・修理窓口のご案内

お使いになる前に

■ このスピーカーシステムの公称インピーダンスは、6Ωです。負荷インピーダンスが4～16Ωのアンプ(スピーカー出力端子に4～16Ωの表示があるもの)へ接続してお使いください。

■ スピーカーを過大入力による破損から守るため下記の注意事項をお守りください。
- 許容入力以上の入力を入れない。
- ピンプラグの抜き差し時はアンプの電源をOFFにする。
- グラフィックイコライザーで高音を大幅に増強する場合、音量を上げ過ぎない。
- 小出力アンプで無理に大きな音を出さない(アンプの高調波歪が増え、スピーカーを破損することがあります)。

お手入れについて

通常は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は化学ぞうきん等に付属の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞などには特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

設置上の注意

■ 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くには設置しないでください。キャビネットが変形、変色したり、スピーカーが故障する原因となります。

■ スピーカーシステムは重いため、不安定な場所に設置するのは大変危険ですのでおやめください。
スピーカーシステムをテレビの上に設置するときは、安定に設置できることを確認してください。もし、安定しないときはテレビの上に設置しないでください（サブウーファーはテレビ、またはモニターの上に設置しないでください）。

■ サブウーファーを設置する場合は、放熱を良くするため他の機器や壁などから十分な間隔をとってください(天面25cm以上、後面10cm以上、右側、左側各10cm以上)。また前側より5cm以上奥に押し込まないでください。本機と壁および他の機器との間隔がとれないと、内部に熱がこもり、性能不良または故障の原因になります。

次のような場所には設置しないでください。

- 直射日光を受けたりする場所、暖房器具に近い場所。
- 風通しが悪く、湿気やホコリの多い場所。
- 振動や傾斜のある、不安定な場所。
- アルコール類やスプレー式の殺虫剤など、引火性のものを使用する場所。
- テレビやモニターなどの上。
- カセットデッキなど、磁界に影響される機器のそば。

チューナーのアンテナケーブルから離して設置してください。

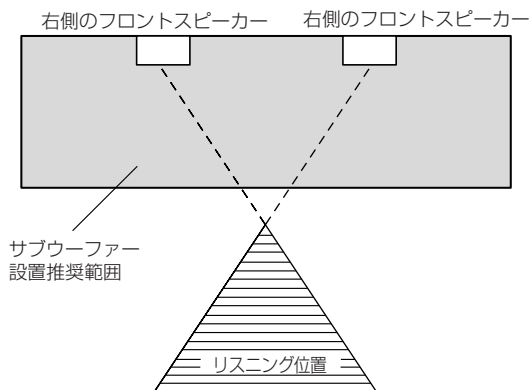
近くに置いた場合に雑音が出ることがあります。このようなときはアンテナやアンテナケーブルから本機を離してご使用になるか、やむを得ない場合は本機の電源を切ってください。

ご注意

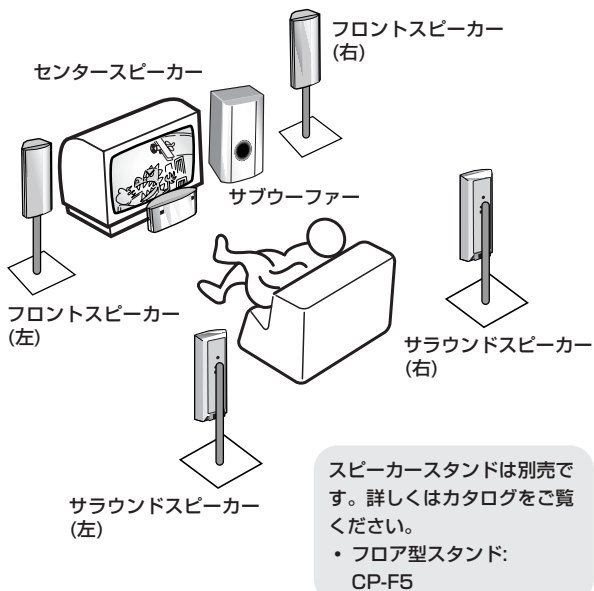
- 本機は、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステムですが、設置のしかたによっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能より、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーシステムをテレビからさらに離してご使用ください。
- 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

設置のしかた

スピーカーの設置

サブウーファーは、人間の耳が低音域において方向感覚が無くなることを利用し、重低音をモノラルで再生します。方向感覚が無くなるため、設置場所は、かなり自由になりますが、あまり離れた場所に置くと左右のスピーカーとの音のつながりが不自然になる場合があります。

設置例

サラウンド効果を最大限に発揮させるため、下図のようなスピーカーの設置をおすすめします。

スピーカースタンドは別売です。詳しくはカタログをご覧ください。
- フロア型スタンド: CP-F5

ご注意

- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- サラウンド(リア)スピーカーはリスナーの真横または少し後方で、耳の位置から約1m位上方に水平方向に設置すると効果的です。

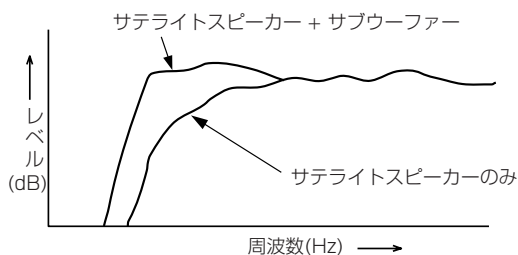
滑り止めパッドの使いかた

滑り止めパッドを紙からはがし、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの底面に4ヵ所づつ貼り付けてください。

センタースピーカーの底面

フロント・サラウンド
スピーカーの底面

サブウーファーとサテライトスピーカーシステムの組み合せ

サブウーファーとサテライトスピーカーシステムを組み合せると、下図の様な特性が得られ、低音域が増強されます。

ドルビーデジタル*の再生においては、サブウーファーの専用再生チャンネルの設定を推奨しており、特にLFE(Low Frequency Effect=映画などの迫力を増すための地鳴りの様な効果音)の再生に対して本機は有効です。

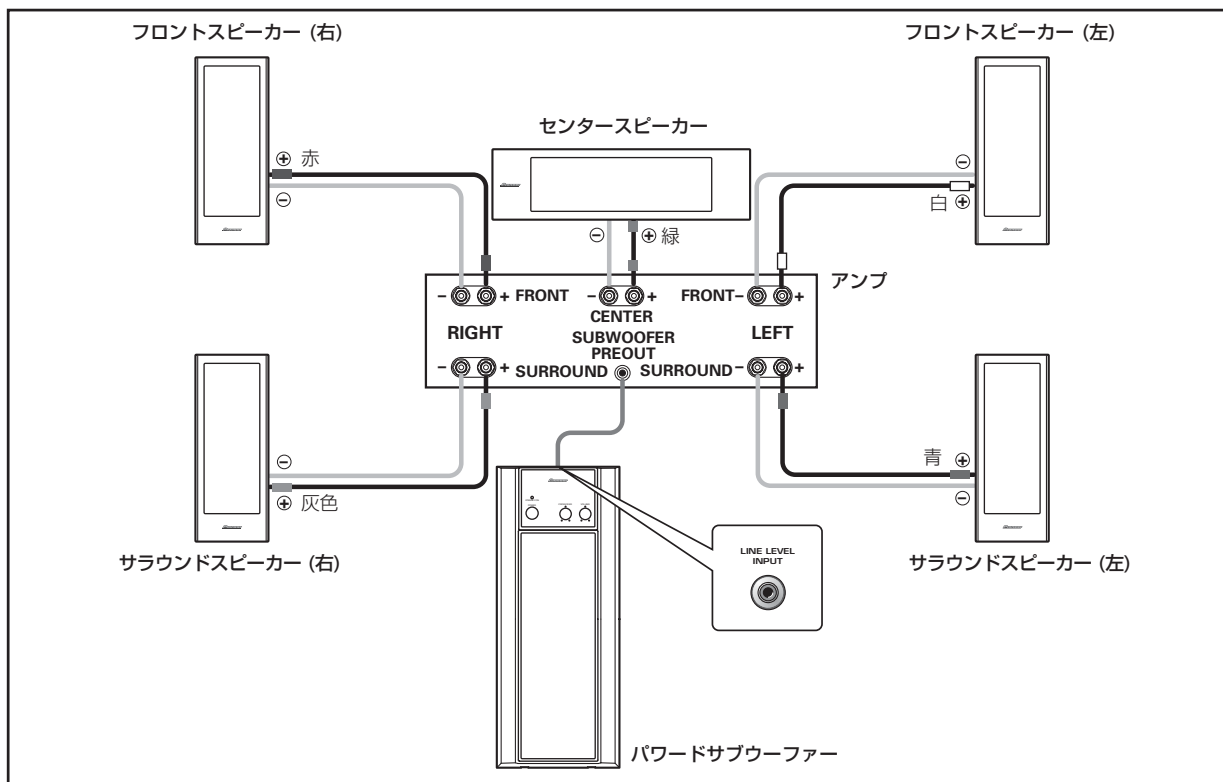
*ドルビーデジタルについて

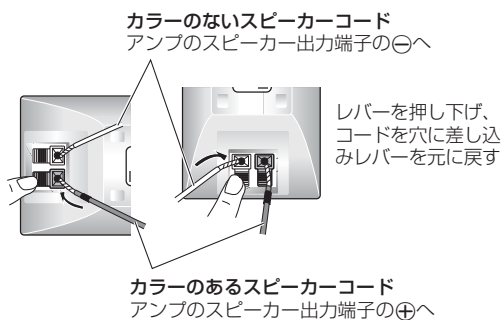
ドルビーデジタルは、ドルビーサラウンドからドルビープロロジックサラウンドと継続して発展してきたドルビーサラウンドのマルチチャンネル、デジタルシステムの名称です。
ドルビーデジタルは5.1チャンネルシステムとも呼ばれます。20Hz～20kHzまでの周波数範囲を持つ5チャンネル（フロント左、右、センター、リア左、右）と、独立したサブウーファー用チャンネルを持っているためです。サブウーファー用チャンネルは、LFE(Low Frequency Effect)とも呼ばれています。
LFEチャンネルは、迫力ある低音を楽しみたいときに好みに合わせて使用するチャンネルとしています。

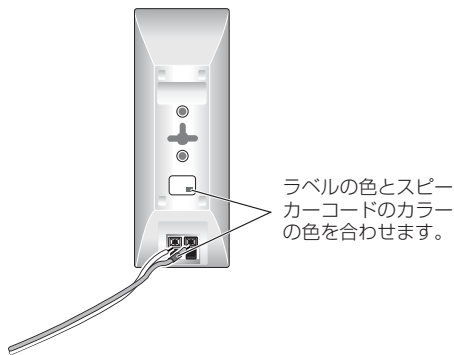
接続のしかた

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

アンプとの接続

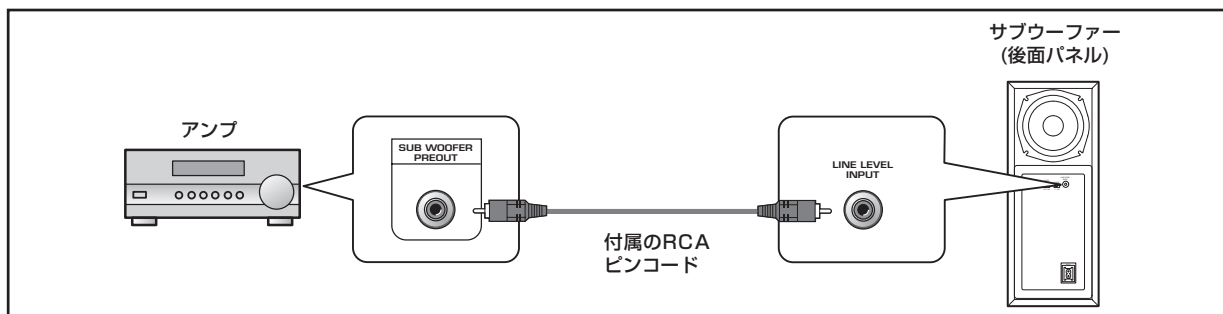
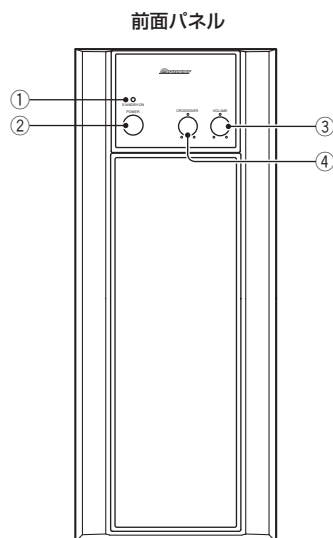
フロントスピーカー（右）
フロントスピーカー（左）
センタースピーカー
⊕ 赤
⊖
⊖
白 ⊕
⊖
⊕ 緑
アンプ
– + FRONT
– + CENTER
FRONT – +
RIGHT
SUBWOOFER PREOUT
LEFT
– + SURROUND
SURROUND – +
⊖
⊕ 灰色
青 ⊕
⊖
LINE LEVEL INPUT
サラウンドスピーカー（右）
サラウンドスピーカー（左）
パワードサブウーファー

1 アンプの電源スイッチを切ってください。（POWER OFF）

2 スピーカーシステムの入力端子とアンプのスピーカー出力端子を付属のスピーカーコードでつなぎます。下図のようにサテライトスピーカーの⊕端子（赤い端子）にカラーのある側のスピーカーコードをつなぎます。同じように、カラーのある側のスピーカーコードをアンプの⊕端子につなぎます。

ご注意

- 端子に接続した後コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確かめてください。不完全な接続は、音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしがふれたりするとアンプに過大な負荷が加わって動作が停止したり、故障することがあります。
- アンプへ接続したときに、片方(右または左)のスピーカーシステムの極性(⊕、⊖)を間違ってつないだ場合、正常なステレオ効果が得られなくなります。

サブウーファーの接続のしかた

すべての接続が終ってから、コンセントを接続してください。アンプにサブウーファー用のプリアウト端子があることを確認してください。付属のRCAピンコードで、本機のLINE LEVEL INPUT端子と接続します。

ご注意

アンプの、サラウンド・センターチャンネル用のプリアウト端子と接続すると、センターチャンネルのみの低音となり、十分な低音が得られません。

サブウーファーの各部の名称と使いかた

① **パワーインジケーター(STANDBY/ON)**

電源をオンにすると緑色に点灯します。
信号のない状態が約8分以上続くと、オートスタンバイ機能（8ページ参照）がONの場合は自動的にスタンバイ状態になります(インジケーターが赤く点灯します) 。その後、信号が入力されると電源がオンになり、インジケーターが緑色に点灯します。

ご注意

長時間使用しないときは電源をオフにして、インジケーターが消灯していることを確認してください。

② **パワースイッチ(POWER)**

押すと電源がオンし、もう一度押すとオフします。

③ **レベルつまみ(LEVEL)**

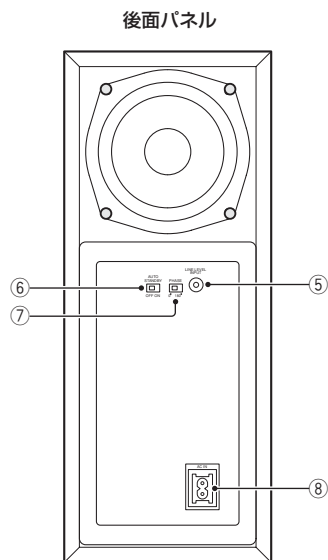
サブウーファーの音量を設定します。

- 最小(MIN)位置からゆっくりと回してください。
- 本機は独自に重低音のレベルを設定できますので、アンプ側で低音の増強をしないでください。

④ **クロスオーバーつまみ(CROSSOVER)**

クロスオーバー周波数を設定します。一般的にクロスオーバー周波数はスピーカーユニットの口径に依存するため使用するフロントスピーカーによって以下のように変更します。（付属のフロントスピーカーを使用する場合は、MAXに設定します。）

MIN 使用するフロントスピーカーの口径が20cm以上の場合
CENTER .... 使用するフロントスピーカーの口径が10〜20cmの場合
MAX 使用するフロントスピーカーの口径が12cm以下の場合

後面パネル

⑤ ラインレベルインプット端子
(LINE LEVEL INPUT)
サブウーファー用のプリアウト端子付きのアンプと、付属のRCAピンコードで接続します。

⑥ オートパワーオン/オフ切り換えスイッチ
(AUTO STANDBY)
オートスタンバイ機能をONまたはOFFにします。

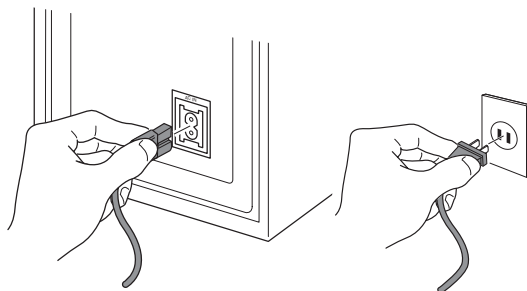
- オートスタンバイ機能

オートパワーオン/オフ切り換えスイッチ⑥をON（お買い上げ時はOFFになっています）にすると、オートスタンバイ機能が働きます。入力信号がない状態で約8分間が経過すると、電源が自動的にスタンバイ状態（オフ状態）になります。入力信号が入ると自動的に電源がONになります。

ご注意

使用する環境によって、周辺機器からのノイズなどの影響を受けてオートスタンバイ機能が働き、電源がオンになってしまうことがあります。そのようなときはオートパワーオン/オフ切り換えスイッチをOFFにして、パワースイッチで電源のオン・オフをしてください。

⑦ 位相切り換えスイッチ (PHASE 0°/180°)
使用するスピーカーユニットによっては極性が初めから反転しているものがあります。
この場合、サブウーファーとフロントスピーカーとの接続極性を逆にしたほうが音のつながりがよい場合があります。通常は0°にて使用しますが、極性が不明な場合は特に、位相反転の有無を聴き比べてみることをおすすめします。

⑧ ACインレット
電源コードを接続します。すべての接続が終わってから、一番最後にACインレットと壁のコンセントとを付属の電源コードで接続してください。

使いかた

1　パワースイッチ(②)をオンします。

- 本機の電源コードをアンプのスイッチ連動コンセントに接続したときはオンのままにしておくと、アンプと連動してオン/オフできます。
- アンプと連動できない場合は、アンプの電源をオンしてから本機をオンしてください。電源を切るときは、本機をオフしてから、アンプをオフしてください。

2　アンプを操作して音を出し、左右のスピーカーの音量を調整します。

3　レベルつまみ(③)で低音の強さを調整します。

必要に応じてクロスオーバーつまみ(④)、位相切り換えスイッチ(⑦)、レベルつまみ(③)で調整してください(**P.7**)。

⚠ 注意

パワーインジケーターが消灯している状態でも、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。旅行などで長期間この製品をご使用にならないときには、安全のため必ず電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

故障？　ちょっと調べてください

故障かな？....と思ったらちょっとチェックしてみてください。意外な操作ミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気器具も合わせてお調べください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。 （パワースイッチを押してもインジケーターが点灯しない。）	• 電源コードが正しく接続されていない。	• プラグを正しく接続してください。
音が出ない。 （インジケーターは点灯する。）	• レベルつまみがMIN位置になっている。 • RCAピンコードの接続が正しくない、または外れている。	• レベルつまみをゆっくり右に回してください。 • 接続を確認し、正しく接続してください。
音が歪む。	• 音量が大きすぎる。	• レベルつまみを左に回し、音量を下げてください。
発振（大きな音が連続的に出る）する。	• 本機の音量が大きすぎる。	• レベルつまみを左に回し、音量を下げてください。
チューナーを聞いたとき雑音が多い。	• AMループアンテナやFMの室内アンテナが本機の近くにある。	• AMやFMのアンテナ(室内用）と本機の距離を離してください。
スタンバイ状態にならない。	• オートパワーオン/オフ切り換えスイッチがOFFになっている。	• オートパワーオン/オフ切り換えスイッチをONにしてください。

保証とアフターサービスについて

保証書（別添）について

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
保証期間はご購入から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後8年です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談は

お買い求めの販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼が出来ない場合は、別冊の「修理窓口・ご相談窓口のご案内」に記載されている修理受付センターにご相談ください。

修理を依頼されるとき

9ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときには、ご使用を中止し必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店へご依頼ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 製品名：スピーカーシステム
- 型番：S-HS02
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容の状況(できるだけ詳しく)
- 訪問のご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物、公園など)

■ **保証期間中は：**
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ **保証期間が過ぎているときは：**
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

愛情点検

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか?
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または、お買い求めの販売店に点検(有料)をご依頼ください。

仕 様

フロントノサラウンドスピーカー

型式 .... 密閉式ブックシェルフ型、防磁設計(JEITA)
スピーカーユニット .... 11×7 cmコーン型フルレンジ
公称インピーダンス 6Ω
再生周波数帯域 .... 120〜25,000Hz
出力音圧レベル .... 84.5 dB/W(1 m)
許容入力
　最大入力(JEITA) .... 75 W
外形寸法 .... 82(幅)×210 (高)×84 (奥行)mm
質量 0.7kg

センタースピーカー

型式 .... 密閉式ブックシェルフ型、防磁設計(JEITA)
スピーカーユニット ...... 11 x 7 cmコーン型フルレンジ
公称インピーダンス 6Ω
再生周波数帯域 .... 120〜25,000 Hz
出力音圧レベル .... 84.5 dB/W(1 m)
許容入力
　最大入力(JEITA) .... 75 W
外形寸法 .... 300(幅) x 82(高) x 84(奥行)mm
質量 .... 0.8 kg

パワードサブウーファー

アンプ部

実用最大出力(100Hz, 10%, 6Ω) .... 100 W
入力端子
　入力レベル .... 160 mV/20 kΩ
クロスオーバー周波数 .... 50〜200Hz（連続可変）

スピーカー部

型式 .... バスレフ方式フロアー型、防磁設計(JEITA)
スピーカーユニット .... 13 cmコーン型

電源部・その他

電源 .... AC100 V、50/60 Hz
消費電力 .... 67 W
省エネモード時消費電力（オートパワーオフ時）
 .... 0.5 W以下
外形寸法 .... 165(幅)X 405(高)X 325(奥行)mm
質量 .... 9.4 kg

付属品

スピーカーコード
　10 m 2
　5 m 3
RCAピンコード(3 m) 1
滑り止めパッド(サテライト用) 1シート
滑り止めパッド(サブウーファー用) 1シート
電源コード 1
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1

- 左記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

● **パイオニア・カスタマーサポートセンター**（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜　9：30～17：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

<ご注意>フリーフォンは、ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。
あらかじめご了承ください。

家庭用オーディオ／ビジュアル製品のご相談窓口 ： **0070-800-8181-22**
カタログのご請求窓口 ： **0070-800-8181-33**
ファックス ： **03-3490-5718**

パイオニアホームページでのご案内

お問い合わせ先のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/*
カタログ請求とメールサービス登録のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html*

部品のご購入についてのご相談窓口

付属品（リモコン・取扱説明書など）のご購入や、補修用性能部品（修理使用部品）に関するご相談についてはパイオニア部品受注センターにご相談ください。部品の交換方法などの技術相談につきましては下記のパイオニア修理受付センターにご相談ください。

● **パイオニア部品受注センター**

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

<ご注意>フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

電話（フリーダイアル） ： **0120-5-81095**
一般電話 ： **0538-43-1161**
ファックス（フリーダイアル）： **0120-5-81096**

修理のご依頼／修理についてのご相談窓口

修理を依頼される前に取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。それでも異常のある時は、必ず電源プラグを抜いてから、ご購入店へご連絡ください。
ご購入店がわからないときやお近くにないときは、パイオニア修理受付センターへご相談ください。（沖縄県を除く）

● **パイオニア修理受付センター**（沖縄県を除く全国）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

<ご注意>フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

電話（フリーダイアル） ： **0120-5-81028**（ゴーパイオニア）
一般電話 ： **03-5496-2023**
ファックス（フリーダイアル）： **0120-5-81029**

● **沖縄サービスステーション**（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00 （土曜・日曜・祝日・弊社休日は除く）

一般電話 ： **098-879-1910**
ファックス ： **098-879-1352**

高調波ガイドライン適合品

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒１丁目４番１号

<TFJZF/02D00000>　<SRA1402-A>